

# Epistula

エピストゥラ … epistula,ae,f. 手紙、文章【ラテン語】

# vol. 23

2011.4 [Apr.] - 6 [Jun.]

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈りいたします。本学では、今回の地震の被害に対する支援として大学生の転入学受け入れや義援金の募集を行っています。

## 第49回卒業式・第31回専攻科修了式を行いました



3月23日(水)、学生の成長を見守ってきたご家族やご来賓・本学教職員が見守るなか、第49回卒業式・第31回修了式を執り行い、4学科の学生と専攻科生440名が本学を巣立ちました。

中山学長が各学科と専攻科の代表者に卒業・修了証書を手渡し、「自信を持って希望する道を邁進すれば必ず道は開け、周囲を幸せにすることができる」と卒業生・修了生に激励の言葉を贈りました。また、卒業生を代表して松永あおいさん(国際文化学科)が「芸短大で学んだことがきつと糧になり、支えになる」と答辞を述べ、在学学生に向けて「芸短で過ごす2年間は『今』しかありません。限られた時だからこそ、一生懸命に大切にしてください」とメッセージを贈りました。

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・修了、誠にありがとうございます。本学は皆さんのご活躍を期待し、今後も応援いたします。

※中山学長の式辞は本学HPに掲載しています。



## 「吉村正郎展」を見て

吉村正郎先生が染色担当の教授として本学に赴任されたのは1994年。96年に県立芸術会館で開かれた「大分三大学美術教員展」における発表が、大分における初の作品公開となりました。

その時展示された「エアークロス」と題された作品は、繊維が絡み合ってきた薄膜が直径70cmほどの球体を形作っているもので、はかなげな素材感と球という完璧な形の共存が、見る者に不思議な感覚を覚えさせるものでした。

1月12日から1週間、大分市アートプラザで開かれた「吉村正郎展」は、久しぶりに県内で先生の作品を見られる機会となりました。また、70年代からの造形的探求を概観できる貴重な展示でもありました。例えば、裁断された200枚ほどの布を固く縫い合わせて枠状にした作品「フレームクロス」は、身近な存在である布という素材が、鉄の彫刻のような重量感を見せていることに驚かされます。その驚きは、最新作である糸目糊を使った繊細な染色作品にも潜んでいるのです。

今回は3月の退任を記念した展覧会でしたが、先生は今後も大分市内に居を構え、創作活動を続けられるそうです。今後のますますのご活躍をお祈りするとともに、次に作品を拝見する機会がそう遠くないことを念じております。(美術科教授 久保木真人)

吉村先生は、アメリカやヨーロッパはもちろん、チリやオーストラリアなど世界各地の工芸展・ファイバーアート展に招待され、出品を重ねてこられました。また、2005年に日本のテキスタイルに関わる教育研究者たちが立ち上げた日本テキスタイルカウンスルに創立会員として参加し、毎年開催される展覧会「テキスタイルの未来形」にも出品を続けています。



## 「地域活動フォーラム」を開催しました

2月1日、コンパルホールにおいて第2回「芸短大 地域活動フォーラム」を開催しました。

はじめに、ナラティブ能力プログラムの担当教員である情報コミュニケーション学科長の吉良伸一教授による趣旨説明と同学科高橋雅也講師によるアメリカでの視察を報告し、その後、学生による活動発表を行いました。内容は平成22年度で主に取り組んだ7項目くあしなが育英会、府内学生ECOフェスタ、竹田食育ツーリズム研修、SAEMON23、大分七夕まつり、長湯温泉日韓短編映画祭、環境活動(上野の森の会・上野の森アートフェスティバル・キャンドルナイト)です。

パワーポイントのほか、自分たちで撮影・編集した動画なども駆使して、活動の現場で感じ、学びとったことや今後の課題などを発表しました。本学からは約150名の学生教員が参加。また、高校生や学生の活動を支えるコミュニティパートナーの皆様、保護者の方々にもご出席いただきました。最後の総評および評価会議では、委員の方々から励みになるご意見を数多くいただきました。地域活動を意義深いものにするためには、振り返りが不可欠。このフォーラムから何を学んだかを明確にして、今後とも取り組んでいきます。



## 無事、帰国しました—ニュージーランド語学研修

ニュージーランド・クライストチャーチ市で短期語学研修に参加し、2月22日の大規模地震に遭遇した本学学生14名が、本学より派遣された教員2名とともに3月3日、全員無事に帰国しました。学生の避難および帰国に尽力していただいた現地関係者の方々に感謝すると同時に、被災地の復興を祈念しております。今回の研修に参加した学生の声を紹介します。

ニュージーランドでの地震を振り返り、まずは無事に帰ってこれたことに安堵しています。地震が起きた時、立つのがやっとで、その後も足が震えていたことを覚えています。地震の現場で見た被害状況は甚大なものでした。余震も続き不安や恐怖がある中で現地の方の協力でその後の生活を安心して送ることが出来ました。現地の方々にとって大変な事態でありながら、私たちへの温かい配慮に感謝しています。(国際文化学科1年 黒木彩)

一言であらわすと怒涛の実習でした。地震によりほとんど授業を受けられなかったけれど学んだことは多いと思います。学校に行かなかった分ホストファミリーと一緒に過ごす時間は多少あり、色々な話をすることができ短い間だったけれど別れるのが寂しかったです。また、不安な中ほとんどの時間を共に過ごした十数名の仲間とは強い絆が生まれたと思います。(国際文化学科1年 長岡美月)



## 創立50周年を迎えます!

# 50

大分県立芸術文化短期大学  
創立50周年記念

1961(昭和36)年に「大分県立芸術短期大学」が発足してから、2011(平成23)年4月1日で創立50周年を迎えます。本学では創立50周年を祝うとともに、本学が50年間に果たしてきた役割を振り返り、かつ、これからも挑戦する姿を県民に伝えていきたいと「創立50周年記念プロジェクト」と題し、様々なイベントを企画しております。

創立50周年プロジェクトスタートと位置付け、4月6日(水)~12日(火)に、iichiko総合文化センター iichikoアトリウムプラザで「創立50周年記念・大分県立芸術文化短期大学と中国・江漢大学との美術作品合同展」を開催します。これは本学の創立50周年と、交流協定を結んでいる中国・江漢大学の4校合併10周年を祝して開催し、両大学から選ばれた優秀作品各30点をパネル形式で展示する合同展です。開催初日の6日には、テープカットを行うほか、合同展の表彰式もあわせて行います。そのほかの創立50周年記念プロジェクトの主要イベントについては、4面をご覧ください。



### 授業料振替のお知らせ

前期授業料の振替は下記の日程で行いますので、前日までに指定口座にご入金をお願いします。

※金額195,000円 振替日2年生:4/27(水)・1年生:5/27(金)